令和6年度

あいけいだより

第2号

あいけい運動会
～ベストを尽くせ～

発行：社会福祉法人　愛恵協会　広報・渉外委員会

岡崎市舞木町字小井沢4番地１

TEL（0564）48-2055　　FAX（0564）48-5426

発行日　令和7年3月28日

法人・部門　事業計画・運営方針振り返り

社会福祉法人　愛恵協会

理事長　三浦　博幸

愛恵宣言にある「誰一人取り残さない」社会の実現を求めて「障がい者や生活困窮者等の自立と社会参加」を推進し地域の課題にも公益的事業として取り組み、だれもが生き生きと自分らしく安心して暮らすことができる街づくりに参加します。この理念に沿った活動として五つの事業計画を実施してきました。

一、地域交流のシンボルである「なかしばエリア」を活用をしながら、更なる発展を目指します。

各事業所が計画的に毎月使うようになりました。今後は複数の事業所が合同で実施することが増えると良いと思います。

二、障害者のみならず、児童や生活困窮者等にも対応した支援体制を充実させます。

児童や生活困窮者等に対応した支援体制の充実は、子ども食堂「ペロちゃん家」を毎月二回開催、子供も大人も利用者が増えてきました。今後は相談体制の充実、フードバンクの充実に貢献したいと思います。

三、自己評価や第三者評価の仕組みを積極的に取り入れ、福祉サービスの質と透明性の確保に努めます。

第三者評価の実施事業所の成果を活かしつつあります。自己評価をしっかり行い、以後の活動に生かすという点には課題が残っています。

四、持続可能な農福連携を推進します。

農福連携は、各事業所ごと真剣に取り組んでいます。今後は連携して野菜栽培量を増やし、愛恵給食・配達弁当の食材や通所利用者・職員の食材販売に貢献できると良いと思います。

五、働きやすい職場づくりに全職員が取り組みます。

働きやすい職場づくりは、職員へのアンケートも取り、全員が考える事は出来ました。時間を大事にすることを確認できましたが、事業目的達成を生きがいとする職員も満足する働きやすい体制づくりには、創意工夫が必要です。

以上を進める手段として四半期職員目標をどれだけ活用できているかは、年度終了後に判断したいと思います。第三期までの振り返りですが、第四期に向けて少しでも進められるように努力しますので、皆様方のご支援、ご協力をよろしくお願いします。

令和七年一月四日　新年会で
毎年発表される
今年の漢字

進

財務・総務担当
杉山　直人

令和六年度は、担当業務として二つの目標を立てました。一つ目は、最低賃金の改定を踏まえ協会運営と職員給与・賞与の向上のバランスを図ることです。二つ目は、インボイス制度実施、勤怠管理システム導入準備を踏まえ、職員の経理意識を向上させることです。

一つ目の協会運営と職員報酬のバランスについては、処遇改善加算制度の受け入れもあり、令和五年度の職員平均月額給与が八，六二八円上昇で対前年比三、六九％のアップ、令和六年度が平均八，九一五円上昇で対前年比三、六七％のアップでありました。また、年間賞与については、正規職員平均一，二〇四，三二九円で対前年比六、〇％の減となりました。

社会福祉法人が安定した運営を行っていくための人件費比率は、六〇～七〇％と言われていますが、令和六年度決算においては七〇％に近づくと見込まれています。職員が満足する給与上昇を続けるためには、今後の収入増加策を講じる必要があります。

二つ目の職員経理意識の向上につきましては、昨年度のインボイス制度導入により消費税の認識と会計処理見直しを通して業務経理への意識は向上したと思われます。また、今年度は勤怠管理システム導入の準備を行っており、時間外手当という職員に直結した金銭管理を通して全職員の経理意識が向上することを望みます。

いずれにしても今年度は人件費を主とした歳出に目標を設定しました。引き続き職員が安心して活き活きと働ける協会であり続けるため次年度以降では①歳入と歳出のバランス点検②愛恵協会の信頼度アップの為の対外的施策に取り組みたいと思います。

職員教育・福利厚生管理担当
岡本　志朗

担当業務は職員教育、なかしば整備委員会、感染対策委員会です。

職員教育としては、法人の事業概要を知ることを目的として新規採用者研修を実施しました。四名の職員に対して行い、所属施設の役割について法人全体を知りながら理解しました。その中で三名の調理関係の職員については、業務の特殊性を踏まえて三施設の調理場で交互に業務を行いました。

また交流研修を他施設の業務経験から現業務への気付きを得ることを目的として実施しました。参加した三名の職員は研修の目的を理解し目標を立て、目標に対する事前学習から課題を設定して取組みました。研修後には自己評価と管理者評価を受け業務改善に活用しています。

なかしば整備委員会としては、定期的な草刈りを全事業所の協力を得て実施しました。なかしばは、あいけい春まつり、グラウンドゴルフ大会、各施設での散策等が行われています。今後も地域交流のシンボルとしてのなかしばエリアの活用を利用実績の把握を通じて展開することが必要と考えています。

感染対策委員会として、法人の感染対策指針を作成し理事会の承認を得ました。また各施設においても感染対策指針が作成されました。様々な感染症が発生する中でも、各事業を運営する必要があります。そのために各事業の感染対策担当者を主な対象として研修と訓練を二回実施し、その内容を現場で活用しています。

人事・労務担当
山口　昌宏

担当業務は、人事・労務です。令和六年度において、職員の採用状況は正規職員七名、有期契約職員一名、非正規職員四名採用し、退職者は正規職員五名、非正規職員五名という状況です。年度途中に職員の退職、病気療養などあり、適時職員の募集をハローワークやネット求人で行い、またトライアル雇用を行う事で、障がい者雇用も実績をあげる事ができました。

労務につきましては、育児・介護休業法、次世代育成支援対策推進法が改定され、毎年対象となる子どもの範囲が延長されたり、看護休暇の取得事由が追加されたりしています。この様に、時代に合った労働環境を整えたいと思います。

担当委員会であるセブンハウス委員会においては、愛恵園、あいの利用者、岡崎市住まい支援の対象者など、三部屋ほぼ満室であり、設備の面においては、電気アンペアを二〇アンペアから三〇アンペアに上げて冷暖房機器を使いやすい環境にしました。

2023年認定 くるみん 子育てサポートしています

愛知県ファミリー・フレンドリー・マーク

生活保護部門
部門長　末崎　彰規

✿「愛恵園」

障がい者福祉等では実践されている利用者さんに対する「個別支援計画の作成」が保護施設においても昨年十月から義務化されました。愛恵園は従前から取り組んでおり、関係機関との連携の必要性を感じています。また法人事業計画五である「働きやすい職場づくりに全職員が取り組みます。」において生活支援センターこうたと共に当事業所も表彰されました。生活施設の為、交替勤務により全員が一度に顔を合わせる機会はありませんが、一人一人が利用者さんについてコミュニケーションを図り、互いにフォローし合っている事が評価されたことだと思います。今後も同じ目標に向かって努力していきたいと思います。

✿「岡崎市生活困窮者自立相談支援事業」

令和六年度は就労準備支援事業において、委託事業とは別で岡崎市が行っている「高校生プロジェクト」と一緒に賃貸物件「あいけいさつき」を利用し、地域住民にコーヒーや流しそうめんを振る舞いました。また、第五一回岡崎市農林業祭では、お手伝いとして参加することで、コミュニケーションを取る機会を増やしました。これからも就労に向けた練習となるようなプログラムに取り組んでいきたいと考えています。

＊就労準備支援プログラムで取組んでいるカブトムシの養殖場です。最近、カブトムシの養殖場と分かるように立札の設置とチラシを貼りました。絵は高校生プロジェクトの参加者に作成してもらいました。

カブトムシ養殖場

お正月の餅つき

✿「愛恵園授産所」

今年度、特に力を入れた活動の一つが菓子製造です。愛恵園授産所の看板商品となる自主製品の開発に取り組んできました。製造に関わる利用者さんの前職の経験と物価高による原料の高騰を考慮し、「大福」を今年度の推し商品としました。地域での販売では大福を目当てに買いに来てくださるお客も出来ました。また、法人内の施設と大福づくりを通した交流プログラムも実施しました。今後も施設の特色を活かした活動を行ってまいります。

セルプ生活介護部門

部門長　鈴木　慎二郎

愛恵ワークス

舞木ワークス

ステップやまなか

多機能事業所
てんじん

生活介護事業では、安心して過ごせる場の提供を行い、プログラムの充実に取り組んでいます。就労継続B型事業では、目標工賃達成に向けて活発な授産活動を行うとともに農業関連事業による社会参加を推進しています。各施設の今年度の開催行事をご報告します。
愛恵ワークスは安城のプラネタリウムを見学し、マクドナルドでハンバーガーを食べました。
舞木ワークスは、青空の下のブドウ狩りでお腹いっぱいになりました。
ステップやまなかは、バーベキューで鶏肉を大量に食べたり、採れたてじゃがいもの入ったカレーをおいしくいただきました。
てんじんは、竹島水族館でマニアックな魚を見たり、夏まつりを開催したりしました。
みんなが笑顔で楽しい日々を送れるように引き続き取り組みます。ご理解ご協力をお願いします。

生活訓練部門

部門長　泉　陽一郎

令和六年度、生活訓練部門の運営方針は昨年度と同様に法人理念（愛恵宣言）に示されている「利用者一人ひとりの当たり前の生活ができるよう公益事業も含めた幅広い活動に取り組み『誰一人取り残さない』を意識し、重層的な支援が提案できるように務める」としていました。

生活訓練事業所あいでは、重層的な支援のポイントになる相談支援事業所との連携を意識し、利用者が退所するまでの間にできるだけ相談支援事業所につなぐ支援を心掛けています。また、令和三年度に受審した第三者評価を今年度も受審し、改めて事業所運営の課題を把握することができました。

あいけいホームでは、令和六年度法改正に伴う地域連携推進会議の開催に向けた検討を開始しました。来年度に向けて、より具体化していきます。

また、食材費等の高騰により各あいけいホーム拠点（七カ所）の食材費を月三千円増額させてもらいました。

おたまじゃくしでは、年度途中に管理者のおたまじゃくし専任化や登録ヘルパー確保等により、サービス提供時間の増加につながっています。より多くの方に、希望される外出支援、余暇支援が提供できる体制が整ってきていますが、安定した運営を実現するためには職員配置の再検討等課題も多いです。

生活訓練部門に限らず、法人全体として職員が活き活きと前向きに働ける環境が必要不可欠です。業務の効率化（マニュアル化）や法令を遵守した管理者による労務管理等、まだまだ取り組まなくてはいけない課題は山積みですが、来年度以降もしっかり取り組んでいきます。

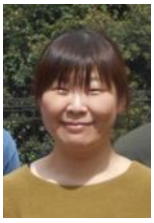
令和6年11月11日
グランドゴルフ大会
決勝戦での集合写真

令和6年12月10日
農福連携会議主催
しいたけコンテスト参加

令和7年1月17日
岡崎市障がい者
作品展出展

相談部門

部門長　青木　裕美



相談部門では、支援を必要とする利用者が安心して地域生活を継続できることを目標に生活・就労・福祉サービスに関する相談、余暇活動の提供を行っています。今年度も法人内や地域の関係機関と協力し、支援に取り組むことが出来ました。

西三河障害者就業・生活支援センター輪輪では、ハローワーク、特別支援学校、就労移行支援事業所との連携を強化し、昨年度より、訪問や職場実習の実績を増やすことができました。また、継続して開催している「働く仲間の交流会」「ピアサポート活動」には、今年度も多くの登録者が参加されました。食事会や軽スポーツを楽しみ、登録者同士や協力いただいた地域の民生委員のみなさまで意見交換する等、良い経験の場となりました。

生活支援センター山中の相談支援事業では、岡崎市東部地域の障がい者相談支援事業所として、一つ一つの相談に真摯に向き合い、そこから浮かび上がる地域課題について関係者会議の場などで共有することに努めました。

また、地域活動支援センター事業では、週末やお盆、年末年始等の長期休暇時を中心に多くの方が利用されました。調理実習や創作活動、外出プログラムなど、利用される方に楽しんでもらえるプログラムを引き続き、提供していきたいと思います。

利用者や地域の方々から今後も信頼される機関となるよう、これからも努力を重ねてまいります。今後ともよろしくお願い致します。

地活の外出プログラム！

授産所前ギャラリーへの展示作品です！

輪輪のぴあサポート交流会ボッチャで楽しみました！

幸田部門

部門長　倉橋　貴志

幸田町事業部門はつどいの家（指定管理委託事業）、つどい作業所、幸田町基幹相談支援センター、生活支援センターこうた、幸田町生活困窮者自立支援事業、子ども食堂を主だった事業として運営しています。

つどいの家（障害者地域活動支援事業）では利用者の年齢・障害特性に応じた支援や、当事者の声を反映できる様話し合いの場を提供し、活動や環境作りに生かしています。生活介護事業においては、図書館など町内公共施設への外出や、講師に来ていただいての音楽プログラムをおこなっています。就労継続支援Ｂ型事業においては、地域企業の協力のもと自動車部品の加工作業やしいたけ栽培に取り組み、利用者工賃の向上に努めております。また、農福連携事業の一環として幸田町役場前の植栽等管理委託事業を開始しています。

幸田町障がい者基幹相談支援センターでは、幸田町内の相談支援業務のバックアップや福祉課と連携し虐待の防止・対応・啓発普及に取り組んでおります。生活支援センターこうたは障がい者が地域で安心して暮らす事ができる街作りや共生社会の実現に向けて取り組んでおります。相談員を一名増員し、質の向上と同時に「断らない」を前提とした体制強化に努めました。

幸田町生活困窮者自立支援事業では①自立相談事業②子ども学習、生活支援事業③就労準備支援事業④子ども食堂を運営しております。行政はじめ地域の企業の協力で対象者への食料支援の充実を図ることができ、坂崎地区住民の方々とのフードドライブの協働も開始いたしました。こういった地域の皆様に協力いただいた提供品については生活困窮者への提供、子ども食堂の食材に活用させて頂いております。その他に自立を図るべく家計改善、法律相談や就労準備支援など経済的自立の促進ができるよう支援に努めております。

宿泊型自立支援施設みらいは、当初の目的にあった将来を見据えた支援に取り組んでおります。将来的な福祉サービスの活用の点では、障害児に対して夏休みや冬休み等の宿泊受け入れをおこなえるよう検討しています。また、保護者との懇談会を開催し、保護者同伴での宿泊要望等様々な体験の場を提供していきたいです。

今後とも幸田町地域の法人・関係機関との相互の協力関係の構築を目指します。

事務局

事務局長　成瀬　昭仁

令和五年度は、法人事業計画の位置づけとして、ＩＣＴの推進及び活用に力を入れてきました。昨今、世間では働きやすい職場作りが推奨され、当法人でも「くるみん」の認定や計画的な有給休暇の取得等に取り組んできました。しかしながら、労働時間の管理に関しては、未だ出勤簿は手書きによる自己申告で記入されたものを使用しており、電子機器等による客観的な労働時間の管理が近々の課題とされてきました。この課題解決の為、令和六年五月より、勤怠システムの導入に向けた取り組みを始め、ＩＣＴ関連の取引先企業からのデモンストレーションを受けながら、勤怠管理機器の選定に入りました。機器の選定を進めていく中で、各種規程・規則の見直し、職員の残業に対する考え方の周知など新たに見えてきた課題もあり、その解決を優先させた上で、来年度初旬には勤怠システムの導入を目指していくこととしております。事務局として取り組んでいる課題はそれだけではありませんが、利用者の皆さんが利用しやすい環境と職員が働きやすい環境を並行して整えられるよう努力してまいります。

山中学区　まちづくり協議会からの報告

愛恵協会は平成30年9月より「山中学区まちづくり協議会」の委員として、地域の皆様と協力しながら分科会活動等に参加してきました。観光名所として期待される山中城址の清掃活動等積極的に取り組み、アウトレットモール建築に伴うまちの活性化や、子どもが安全に通学できる対策について（愛恵ワークス前の県道含む）、引き続き地域の皆様と連携しながら更なる発展に寄与できるように努めていきます。

商業施設建築前の様子
舞木グランドより（令和5年7月時点）

岡崎東部地区「アウトレットモール」工事の様子
舞木グランドより（令和7年2月末時点）

令和6年度あいけい運動会

○×クイズ

リレー
よ～い、ドン!!

フレフレ!!
がんばれ～

玉入れ
なかなか入らないな

白組優勝

第四十回となった今年のテーマは「ベストを尽くせ」とさせていただき、準備から利用者とともに歩み、いろいろな面で利用者も職員もベストが尽くせるように取り組みました。

昨年度、開催時間を短縮するという新たな取り組みを受け、今年度も同じ流れで構成しました。また、日頃からお力添えいただいている愛恵協会後援会や愛恵協会親の会の方とも連携を図り、おでんの提供を継続することも出来ました。

実行委員長として、利用者みなさんの様子を広く見ることができました。また、司会役の利用者も上手にやっていただき、練習の成果があったと思います。

怪我もなく無事に終了できたことは、日頃から応援してくださる地域の方々や当日ボランティアの皆さまのご理解とご協力の賜物です。この場をお借りしまして改めてお礼を申し上げます。誠にありがとうございました。

あいけい運動会
実行委員長
中島　由美子

グラウンドゴルフ大会【第９回なかしば杯】

大会日程予選：10/21～11/4
決勝：11/11

今年度は生活保護部門
【ペロちゃんキャッツ】が優勝しました。
おめでとうございます！

グラウンドゴルフ大会なかしば杯も今回で九回目の開催となりました。これまでと同様に、九月より各施設での練習や施設間の交流試合を始め、十月下旬より部門別の代表チームを決める予選会を行い、十一月十一日（月）に決勝戦を開催することが出来ました。

部門別の結果としては、生活保護部門の【ペロちゃんキャッツ】が合計十二打（四ホール）で優勝しました。おめでとうございます。

決勝戦当日には、弥栄会・親の会の皆様にもご参加いただき、一緒に楽しみながら実施出来たと思います。

予選会では、施設によって工夫をして実施するところもありました。親の会の方に声をかけて一緒に楽しむ、余暇活動で作成したメダルや景品を用意して利用者さんに楽しんでもらえるように取り組む事が出来ました。利用者さんも決勝戦に行けるかどうか結果を気にしながら、チーム同士励まし合い、全体を通して楽しい雰囲気の中で行えたことが何より良かったと感じております。

グラウンドゴルフ
実行委員長
片岡　慎一郎

幸田シンフォニックバンド定期演奏会

開催日　12月9日(土) あい棟 多目的ホールにて

12月14日毎年恒例の幸田シンフォニックバンド定期演奏会を開催いたしました。
第一部は「ジングルベル」や「聖者の行進」等クリスマスソングを中心に演奏して頂きました。第二部はフルートのアンサンブル演奏に聞き入り、第三部は協会からリクエストした「あいけい音頭」を演奏して頂きました。参加する皆さんにも事前に練習して頂いていたので当日は口ずさんでいる方も多く、大変盛り上がりました。

アンコールにも応えて頂き、感動的な演奏会となりました。このような素晴らしい演奏会に携われたこと、ご協力頂いた皆様に感謝しています。

クリスマス会

開催日　12月21日(土) あい棟 多目的ホールにて

12月21日 楽団ホットアンサンブルさんをお招きして、愛恵クリスマス会を行いました。
事前に募ったリクエストを中心にクリスマスソング等14曲が披露されました。80名を超える方が参加され、演奏に合わせた歌声や楽器、手拍子で会場全体がクリスマスの世界に引き込まれ、笑顔いっぱいの楽しいひと時を過ごしました。
最後にはサンタさんからお菓子のプレゼントがありました。いくつになってもクリスマスは心が躍ります。皆さんのワクワクするお手伝いができたことをうれしく思います。ありがとうございました。

公益事業

セブンハウス

公益事業「セブンハウス」は令和6年４月から事業を開始しました。主に愛恵園利用者がアパート等へ移行する前に地域生活の予行練習の場として、また「生活訓練事業所あい」や「あいけいホーム」の利用者が一人暮らしの体験として活用しています。
その他、市役所等から依頼を受けて、ホームレスや一時的に居所を失った方の緊急宿泊の受入れを行うなど、社会に貢献する活動も行っています。
2階建ての建物ですが1階の3部屋を使用して、各部屋エアコン・テレビ完備、冷蔵庫や電子レンジ・コンロといった調理家電も設置、共同設備としてユニットバス、洗濯機があるため、生活用品のない方でもすぐに生活を開始できるのが強みです。

子ども食堂

子ども食堂「ペロちゃん家」は、毎月２回開催しています。「ペロちゃん」とは愛恵園で飼っている柴犬で、誰からも可愛がられているアイドルです。子供たちも「ペロちゃん」と遊べることを楽しみに来てくれています。
メニューは「カレーライス」の日と、「パスタかラーメン」から選べる日があります。
今では毎回15～20名の子供たちが利用してくれています。
また、岡崎市社協さんをはじめ、多数の方々から食材等のご寄付も頂いています。
食事だけではなく「居場所」の提供として、毎回季節に合わせたイベントも行っています。
最近では地域の方が、ボランティアスタッフとして参加していただけるようになりました。
地域に根付く「子ども食堂」を目指して、子どもと共に成長している「ペロちゃん家」食堂です。

ぷらっとホーム

共同住居「ぷらっとホーム」は主に一人暮らしに不安を感じる愛恵協会施設退去者が、生活支援を受けながら一人暮らしの訓練の場として利用しています。
職員が定期的に巡回し、相談や生活面の指導を行っています。3階が男性専用、2回が女性専用で現在5名が利用しています。
一般の住宅と同様のキッチンも完備しており、自炊生活も可能となっています。現在、都市部でよくみられるようになった「シェアハウス」に近い形態といえます。月に1回、利用者ミーティングを開催し、よりよい生活環境を実現するための話し合いを行っています。
利用者個々の状況に応じて、入浴や洗濯等の支援のためのヘルパー利用も行っています。

愛恵生活支援事業　ウィズ

愛恵協会の事業所を利用しながら地域生活を送っている障がい等のある方で、日常的な金銭管理が必要な利用者の方に対して、所属事業所の担当者を通じて金銭の入出金のお手伝いをし自立支援を行っています。

あいけい市

あいけい市は毎月、第4金曜日の12時～13時に開催されています。新鮮な野菜やお菓子などを販売しています。

TOPICS

愛恵協会からのお知らせ

ドミーユニオン様よりこども食堂「ペロちゃん家」へ10万円の寄付をいただきました。

授産製品を東海理化様、東部市民センターで販売をさせていただきましたが、今回マルヤス工業様の協力により社内販売を行うことができました。

（マルヤス工業）

（東部市民センター）

幸田町役場前の花壇整備の委託を受けたつどい作業所の花壇の植替えの様子です。